

平成18年度 関西大学 研修員

研究助成課 2 - 1

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究目的	備考
法	前期1名 後期1名 の 2名以内	教授	市原 靖久	H18.10.1 ~ H19.3.31	1 自宅 2 本学(個人研究室、総合図書館) 3 同志社大学図書館 4 上智大学図書館 5 東京大学図書館 6 国立国会図書館	ユダヤ・キリスト教的人間観 - imado Deiとしての「人」 - という問題系を理解するために、キリスト教の教理史を中心に調査し、そのような「人」がいかにして「法的な人」(homo juridicus)として造形されていくのか、また、「法的な人」がどのように非西欧世界に移植されていったのか、さらに、移植先でどのような反応が惹起されたかについて、研究を行う。	
文	前期2名 後期1名 または、 前期1名 後期2名 の 3名以内	教授	山本 冬彦	H18.4.1 ~ H18.9.30	1 本学(人間活動理論研究センター、総合図書館、個人研究室) 2 豊中市南丘小学校地区 3 吹田市内、豊中市内の各地区	コミュニティ教育をめぐる問題、学校インターンシップや学校間、学校と地域社会の連携、大学の社会連携などの研究テーマを特定のフィールドに即して実施する。特に、子供の放課後教室、地域子ども教室、子育て支援や地域教育活動の振興、その指導者の養成やカリキュラムの開発などの研究に取り組む。	
		教授	柏木 治	H18.10.1 ~ H19.3.31	1 本学(総合図書館、個人研究室) 2 東京大学附属図書館 3 慶應義塾大学附属三田図書館 4 フランス国立図書館 5 パリ第 大学 6 スタンダール及びプロマン主義研究センター(フランス)	まず、従来行ってきたフランス王政復古から七月王政にかけての文学と制度の関係、特にスタンダールを中心とする研究成果をまとめる。後半は、数週間フランスに滞在して、文化共生学関係の資料収集を行い、国民国家の成立と文化の共生、19世紀植民地主義のなかの文化共生、及び共生学から見た身体文化等についての研究を行う。	
		教授	八亀 徳也	H18.10.1 ~ H19.3.31	1 本学 2 自宅 3 ドイツ・マールハバのシラー国立博物館、ドイツ文学館	ドイツ詩人J.M.R.レンツの、20世紀後半に至るまでの後世作家による受容の歴史及び同詩人のフランス・アルザスにおける外国人としての文学活動について研究を行う。また、ドイツ人作家M.ダウテンダイの日本の歌舞伎小屋に関する論考についても研究を深める。	平成13年度 後期研修員
経	前期1名 後期1名 の 2名以内	助教授	中澤 信彦	H18.4.1 ~ H18.9.30	1 自宅 2 本学(個人研究室) 3 京都大学経済学部 4 大阪市立大学経済学部	大学院生時代から十余年にわたり専念してきた18世紀英国(特にスミス、バーク、マルサス)の経済思想の研究について、ケンブリッジ・グループの思想史方法論への理解を深め、その方法論との対峙を通じてこれまでの研究を総括し、今後の研究の更なる発展の礎としたい。	

(注) 規程 第3条 第1項による在職年数(平成18年4月1日現在)に抵触するものではありません。

平成18年度 関西大学 研修員

研究助成課 2 - 2

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究目的	備考
経	前期1名 後期1名の 2名以内	教授	谷田 則幸	H18.10.1 ～ H19.3.31	1 早稲田大学 教育・総合科学 学術院 2 電気通信大学 電気通信学部 3 本学（個人研究室）	効率のアルゴリズムを考え、月2回程度の研究会を通して、改良、精緻化することにより完成を目指す。最終的には、アルゴリズムに関する成果、そのアルゴリズムを実装したシミュレーションでの解析による成果を国際会議で発表するとともに、論文誌に投稿する予定である。	
商	前期1名 後期1名の 2名以内	教授	高橋 望	H18.10.1 ～ H19.3.31	1 本学（個人研究室） 2 プリティッシュ・コロンビア 大学(カナダ) 3 (財)日本航空協会(東京) 4 航空政策研究会(東京) 5 (財)航空振興財団(東京)	航空の規制緩和について、終始世界をリードし、最も大きく影響している米国のオープンスカイ政策の歩みについて、国内の関係各期間で資料収集し、研究を進める。また、カナダにおいて、米国の圧倒的な航空市場開放要求に直面した事例を参考に、我が国の対応の方法を探ることを目的とする。	
社	前期1名 後期1名の 2名以内	教授	森田 雅也	H18. 4.1 ～ H18.9.30	本学（個人研究室及び総合図書館）	これまでの研究を現在の視点から再度まとめなおし、その上で今後進めるべき研究の方向性を確定することを目的とする。個々のテーマは、「主として製造現場におけるチーム作業方式の国際比較」、「経営学における自律性の意義」、「裁量労働制を中心とする、労働時間管理制度が労働者の仕事生活と仕事を離れた生活のあり方に与える影響について」である。	
		教授	齊藤 了文	H18.10.1 ～ H19.3.31	1 自宅 2 本学 3 京都大学 4 名古屋大学 5 九州大学	従来行ってきた工学倫理、特に有名事故の事例研究に含まれる哲学的、倫理学的問題をより深く解明するために、集中的に法哲学、法社会学、社会制度論の文献を獵歩し、関連する研究者と議論を行う。最終的に研究発表を行い、論文を執筆する。	
総情	前期1名 後期1名の 2名以内		被選考者なし				
工	前期2名 後期1名 または、 前期1名 後期2名の 3名以内		被選考者なし				

(注) 規程 第3条 第1項による在職年数(平成18年4月1日現在)に抵触するものではありません。